令和6年度施策評価シート（評価対象年度：令和5年度）

基本政策【分野】	誰もが生涯にわたり 安心して健やかに暮らせるまちづくり 【福祉・保健分野】	**施策**	08_健康づくり	**所管部長 取りまとめ所属**	健康づくり担当部長 健康づくり課
施策の内容	市民一人ひとりが生涯を通じて健康に暮らせる環境を整えられるよう、ライフステージに応じた健康づくりの支援を行うとともに、健康診査や各種検診の充実等により、疾病予防と早期発見を図ります。 また、誰もが自殺に追い込まれることのない地域社会の実現をめざし、こころの健康づくりを推進します。				
めざす姿	市民一人ひとりが自らの健康に関心を持ち、ライフステージに応じた健康づくりに取り組むことで、心身ともに健やかな毎日を送っています。				
重点事業	習慣化アプリ行動変容支援事業	地域食習慣改善推進事業			
施策構成事業	感染症予防対策事業費	疾病予防事業費	がん検診事業費		
	食育推進事業費	市民健康増進事業費	健診・保健指導事業費		
	特定健康診査等事業費	自殺防止対策事業費			

評価

進捗評価	**順調**	**評価の判断理由**	コロナ禍に、自宅で自ら健康づくりに取り組むことのできる「習慣化アプリ行動変容支援事業」や「郵送型血液検査事業」を開始しました。新型コロナの５類以降後も、アプリ等のメリットも利用しながら、対面での講座の再開や集団での特定健康診査の実施など、健康づくりについて多種の機会を提供しました。
施策推進上の課題･環境変化	令和３年度実施の「健康づくりに関する意識調査」によると、40歳代男性の肥満の人の割合が約４割、30歳代女性のやせの人の割合が約２割、体力や健康維持のための運動をしている人の割合は、男女ともに30歳代が最も低く約3割との結果でした。令和４年度特定健診受診率は39.3%で、神奈川県内19市中第2位となっていますが、年齢別で見ると40～44歳の男性は14.4%、女性は23.5%と若い世代ほど受診率は低い傾向となっています。このように、成人期の市民に、健康に関心を持たない方が多いことが課題です。		

評価の経過	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
	順調				

施策推進の方向性

方向性	**継続**
総評・今後の施策推進方針	老年期の方への支援として有効な従来型の対面での相談等も継続して実施しながら、健康に関心の低い成人期の働く市民の参加が見込まれるアプリを利用した講座やオンライン会議システムを利用した相談などコロナ禍に採用した新たな形式の健康づくり事業も継続実施していきます。また、現在利用のツール以外にも有用なアプリ等があれば採用を検討し、ICTを積極的に活用していきます。 食育推進については、主食・主菜・副菜をそろえた栄養バランスの良い食事を啓発するために伝統的な和食料理の普及などを活用していきます。

成果指標

成果指標名 **指標の定義**	**現状値**	**R５ 実績値**	**R６ 実績値**	**R７ 実績値**	**R８ 実績値**	**R９ 実績値**	**R９ 目標値(方向性)**
こころサポーター養成者数 こころサポーター養成講座の受講者数（累計）	－	**181人**					**1,250人**
日頃､自分の健康に気を配っている人の割合 市民意識調査で｢そう思う｣｢どちらかといえばそう思う｣と回答した人の割合	**65.5% (R4)**	**69.1%**					↗
定期的に健康診査等を受けている人の割合 市民意識調査で、過去１年以内に健康診査または健康診断（市や職場、学校などが実施したもの、または人間ドック）を受診したと回答した人の割合	**73.0% (R4)**	**75.5%**					↗

<table>
<tr><th colspan="4">重点事業の取組内容</th></tr>
<tr><td>事業名</td><td colspan="3">習慣化アプリ行動変容支援事業</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">健康的な生活習慣の確立を促すため、同じ目標に取り組む仲間とアプリ上でコミュニケーションをとりながら、目標達成をめざすことができる「ピアサポート型習慣化アプリ」を活用した健康づくりに取り組みます。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">取組工程</td><td rowspan="2">項　目</td><td colspan="2">令和5年度</td></tr>
<tr><td>計画</td><td>実績</td></tr>
<tr><td>習慣化アプリ（グルコース測定器併用）の活用</td><td>継続実施</td><td>継続実施</td></tr>
<tr><td>習慣化アプリ（食生活改善記録アプリ併用）の活用</td><td>開始</td><td>開始</td></tr>
<tr><td>習慣化アプリ（栄養評価尿検査キット併用）の活用</td><td>開始</td><td>開始</td></tr>
<tr><td>令和5年度
取組内容</td><td colspan="3">●「食生活改善記録アプリ」「栄養評価尿検査キット」、簡易的に血糖値測定ができる「グルコース測定器」、歩数等を記録し健康的な生活習慣の継続・確立をめざす「習慣化アプリ」を活用した講座を開催し、計８０名が参加しました。全参加者中、男性が４割（３２名）参加となっており、またその内、７割（２２名）が２０～５０歳代と働き盛りの男性に多く参加いただけ、各アプリ利用後のアンケートにおいても、全てのアプリについて、使って良かったと回答した方は、７～８割という状況でした。
　一方、課題として、肥満の方の参加割合が、全体の２割程度であったことがあげられ、なかなか申し込みにつながりにくいことが分かりました。また、参加者歩数データから肥満の方はそうでない方と比べて、平均歩数が少ないことも分かり、令和６年度はウォーキングに関する情報等のサポートを実施します。</td></tr>
<tr><td>事業名</td><td colspan="3">地域食習慣改善推進事業</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">地域の食育推進のための人材養成・育成・活用を図るため、講座や研修を実施します。
また、食生活が多様化する中、地域の食文化の次世代への継承を図るため、和食文化や地域の郷土料理を活用した食育活動に取り組みます。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">取組工程</td><td rowspan="2">項　目</td><td colspan="2">令和5年度</td></tr>
<tr><td>計画</td><td>実績</td></tr>
<tr><td>ヘルスメイトの養成</td><td>講座の実施</td><td>講座の実施</td></tr>
<tr><td>ヘルスメイトの資質向上</td><td>研修の実施</td><td>研修の実施</td></tr>
<tr><td>地域の食文化の継承</td><td>講座の実施／
リーフレットの配布</td><td>講座の実施／リーフレットの配布</td></tr>
<tr><td>令和5年度
取組内容</td><td colspan="3">【ヘルスメイト養成講座の実施】
●地域における食育を推進する人材養成のため、市民対象に全８回の養成講座を実施しました。２６名申し込みがあり全員修了、内１２名が「伊勢原市ヘルスメイト」として登録しました。
【ヘルスメイト資質向上研修の実施】
●養成後の資質向上のための育成として、入会１年目の新任者向け研修（全５回　延４８人参加）、全会員を対象とした研修会（全４回延９９人参加　内、下記【地域の食文化の継承】ヘルスメイト向けの1回２５人参加を含む）を実施しました。
【地域の食文化の継承】
●地域の食文化を次世代へ継承するため、和食文化等に関する講習会等を実施（市教諭向け１回２２人参加、ヘルスメイト向け1回２５人参加）、また市内県立高校２校生徒に、日本型食生活等に関するリーフレットを配布しました。</td></tr>
<tr><th colspan="4">重点事業以外の取組内容</th></tr>
<tr><td>令和5年度
主な取組内容</td><td colspan="3">―</td></tr>
</table>